

平成29年度第2回学校評議員会の実施報告書

学校名

岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校 校長 土井 充行
所在地 岐阜市芥見南山 3-11-1 電話 058-243-0710

- 1 会議の名称 岐阜県立岐阜清流高等特別支援学校評議員会
- 2 会議の構成委員
清水達郎 芥見南自治会連合会 会長 (欠席)
伊藤知子 株式会社十八楼 女将
五十川勝也 芥見東身体障害者福祉協会 会長
土屋明之 中部学院大学短期大学部 特任教授
高橋貴美子 岐阜清流高等特別支援学校 PTA 会長

学 校 土井充行 校長
高井繁喜 教頭
下野修 事務長
後藤周太郎 部主事
横田真 教務主任
- 3 会議の目的 教育に関する理解及び見識を有する人々から、学校運営等について幅広く意見を聞き、開かれた活力ある学校づくりを推進する。
- 4 会議の開催 平成30年3月7日(水) 10:00~12:00
岐阜清流高等特別支援学校 校長室
- 5 会議の概要
 - (1) 校長挨拶
 - (2) 議題
 - ・授業参観(各専門コース)
 - *次年度は福祉コースにおいて資格取得に向けたカリキュラムを設定している。
 - ・専門コース製品の価格設定について
 - *食品コース：菓子パン14種・総菜パン6種
 - *園芸コース：価格は第1回評議員会時より変わっていない。販路拡大が課題。

意見1：工業コースのペンスタンド(200円)の価格は、手間がかかっている割に安価ではないか。

意見2：木工製品はもう少し価格が高くても売れている。
購入者の意見を聞く機会を設け、生徒の意欲につながるような学習の仕組みが必要ではないか。

回答→販売時における教育活動に取り入れるよう検討する。
原材料費と購入者の意見等を鑑みて検討する。

(3) 学校評価について

*アンケート結果（保護者・学校評議員・生徒対象）に基づいて資料にて課題を提示

*結果分析の結果で E「わからない」の回答割合が 20 パーセント以上の項目数が 12 項目あり、これらの取組状況について、保護者に明確に伝える必要がある。

意見 1：生徒アンケート⑩の結果から学校生活において消極的な生徒がいると読み取れるが、その点について学校の見解はどうか。

回答→不登校傾向の生徒もいるため、そのような結果が表れていると考える。また、SNS 上での生徒間トラブルもあるが、生徒指導を継続的に実施してきた結果、頻度は減っている。

意見 2：保護者アンケート E「分からない」の回答が多いが、個別の支援計画の説明が不十分ではないのか。

回答→担任と保護者の相互理解が深められるよう、明確かつ具体的に説明できるよう改善を図る。

意見 3：今の 1 年生は上級生がおらず、目標となる存在がない。他校の就労している卒業生を招いて「先輩と語る会」のような会を開催して、働く先輩たちからの話を聞く機会を設けてはどうか。

意見 4：生徒や保護者が、卒業後の教員の支援体制や障がい者就業・生活支援センターの支援体制を聞く機会を設けてはどうか。

回答→（意見 3、4 を受けて）卒業後の企業就労は、本校の目指す卒業後の姿であり、生徒や保護者にとって前述のご意見はとても有効であるので、前向きに検討する。また、在学中から、卒業後の支援体制構築に向け、関係機関との連携を深めていきたい。

(4) 来年度の学校運営及びコミュニティ・スクール制度について

*資料に基づいて説明

意見 1：学校祭を見学させてもらった際に、たくさんの地域の方が来校していた。地域連携の下地はできているのではないかと考える。

回答→地域の自治会との連携において、学校のメリットだけでなく地域においてメリットがあるものにしていかなければならないと考えている。

意見 2：日頃お世話になっている地域の方々を招いて、感謝の気持ちを伝える機会を設けてはどうか。

食品コースのパンのワゴン販売等、地域の方々の楽しみになることを始めてはどうか。

授業参観を年 3 回からもっと回数を増やして、保護者が集まっている話ができる機会を増やしてもいいのではないかと考える。

回答→今年度は開校初年度ということもあり、事前の計画や案内の時期が遅くなった。次年度は早期の計画や案内を行い、委員の方々のご意見を反映した

教育活動を実践していきたい。

(5) 会議のまとめ

各委員からいただいた意見をもとに、教育活動の内容について検討し改善する。

次年度は学んだことを発表するなど、実践を重視し、普段の教育活動、学習活動及び、コミュニティ・スクール制度の実践に向けた取り組みについても、より一層のご協力をお願いしたいと考えている。

本日は、ありがとうございました。